

2021年 4月号

Stitches for Riches 広報誌

シェムリアップ通信

作成: Stitches for Riches
広報誌編集部

新年度にあたって

新高2・3年生の皆さん、進級おめでとうございます。高校1年生の方々はご入学おめでとうございます。私たちはカンボジア裁縫プロジェクトのStitches for Richesです。現在は高3が4名、高2が8名で活動をしています。昨年は残念なことにカンボジアに行くことは出来ませんでしたが、日本にいながら出来ることを模索しながら一年間活動してきました。2020年度行ってきたことは、Zoomでの定期的なミーティング、カンボジアに住む日本人の方との交流を行いました。そのほかにも全国各地のカンボジアに関する活動を行っている高校とオンライン上での研修を行いました。多くの制約がある中での活動ではありましたが、新たな生活様式に適応していく第一段階となったのではないかと感じています。残念ながら、今年度もカンボジアワークキャンプは中止となってしまいましたが、少しでも多くの方にカンボジアとはどのような場所なのかを知っていただけるような企画を考えています。詳細は決定次第、シェムリアップ通信にてお知らせします。多くの方の参加をお待ちしております。

ワークキャンプを振り返る

特に新入生の皆さんはワークキャンプとはどのようなものなのか想像がつかない人もいるかと思います。そこで今回は、ワークキャンプでの思い出を中心に書き進めていきます。

さて、カンボジアという国は東南アジアにあり、東京から乗継含めて約7時間。世界遺産、アンコールワットのあるシェムリアップという街に到着しました。思っていた以上に街は栄えており、ネオンで夜のシェムリアップは輝いていました。海外に行くとき多くの人が気にするであろう、食事は意外にも日本人の口に合う味でした。川魚の淡白な身と東南アジア名物の香辛料をふんだんに使用したタレがご飯に合います。

翌日は小学校を訪問しました。まず、我々が練習した「カエルの歌」を演奏し、日本で集めた文房具を寄付しました。また、児童に対してドッジボールを教えました。言葉で説明するよりも我々がデモンストレーションを行うことで素早く理解してくれ、試合は熱く盛り上がりました。その他にも新聞紙を使用して「かぶと」や「ハリセン」といった日本の遊びについてもレクチャーを行い、カンボジアの子供たちに日本文化に触れてもらいました。

カンボジアにはない新たな遊びに終始興味津々でした。小学校を訪問した午後にはポルポト政権時代の大虐殺について伝えるキリングフィールドを訪れました。寺院の境内には大きな箱があり、その中に亡くなった方々の骨が無造作に置かれていました。それを見るだけで虐殺がどれ程無惨なものだったかを思い知らされました。別の日には高校を訪問しました。多くの生徒が温かく迎えてくれました。高校では主にインタビューを実施した。内容としてはどのような生活をしているのか、将来の夢などをお互い教えあいました。



各自が持参した日本文化に関する写真をもとに生徒へプレゼンを行いました。また、サッカー、バレーボールなども行いました。サッカーはカンボジアで最も行われているスポーツです。元・日本代表の本田圭佑氏のカンボジア代表監督就任やプロリーグに多く日本人が所属しており、身近な存在だと考えさせられました。

毎晩、私たちは市場やスーパーに行きました。スーパーなどに行くと現地の人々の生活を身近に感じることができます。海外に行く時に欠かせないことだと思います。我々は世界遺産なども見学しました。アンコールワットは国旗にも描かれるほど重要なものであり、歴史的価値が大いにあると認識しました。

カンボジアに行って感じたことは誰もが明るく接してくれたことです。異国の地から来た人間にも笑顔で話しかけてくれます。たとえ言語が分からなくても笑い、スポーツをするだけでも交流は深まることを感じさせてくれました。今でも写真を見るたびに記憶が蘇ります。

(文・写真:池田頼人)

3 学期の活動

本来、3 学期は合同カンボジア研修を日本各地の幹事校のある場所まで赴いて研修を行っていましたが、2020 年度はオンライン上での交流となりました。ここでは合同カンボジア研修を含めた3 学期の活動風景をご紹介します。

合同カンボジア研修(1 月 9 日)

この研修は SGH に加盟している高校のなかでカンボジアに関連した活動を実施している学校を集めて行う研修です。参加校は昭和女子大附属高校、岡山学芸館高校、和歌山信愛高校、広島女学院高校でした。主な内容は各校のプレゼン、カンボジアに移住しボランティア活動を行っている4 人の日本人のお話、グループに分けてテーマに沿ってディスカッション、各校で「先入観」とは何かについて議論などが行われました。コロナの影響で各校はこれまで通りに活動を行うことができませんでしたが、オンラインで活動を行っている学校が多くあり、SFR の活動に活かせるものがありました。

カンボジア在住の内田さんとの交流(2 月 28 日)

合同カンボジア研修にてカンボジアに住む日本人の中に内田さんという方がいらっしゃいました。内田さんは大学生時代にカンボジアに小学校を建設・運営を行っているかたで、SFR と同じく教育という面で何かできることはないかということで質疑応答を中心に実施しました。1 時間程度という短い時間ではありましたが、カンボジアに行くことの出来なかった現・高2 のメンバーにとっては貴重な経験となりました。



カンボジアから生徒・教員アンケートの結果届く(3 月 19 日)

例年はワークキャンプに行くと高校生を中心に将来の夢や学習意欲といったことについてインタビューを行っていましたが、カンボジアに行けなかったために最新のデータがありません。また、具体的なデータを収集することで発表などを行うときに根拠を裏付けることができるため、カンボジアに住む ASAP 関係者の方にご協力いただき、調査を実施しました。集計は終了していますが、内容の分析といったことがまだ完成していないため、完成次第、シェムリアップ通信などで皆さんにお知らせします。

3 年生から後輩へのメッセージ(3 月 25 日)

3 月 1 日に本校を卒業した先輩方から、後輩に向けて SFR での思い出やどのように取り組んでいくべきかといったアドバイスを頂きました。先輩方とカンボジアに行った際には先輩とは思えないほど仲良くして頂き、また活動のサポートなど多岐にわたって支えて頂きました。これまでのご活躍に感謝します。

次回予告

・「Save the Children」から思うボランティア活動との向き合い方

・アンケート集計結果(仮)

発行予定:GW 明け(5月 10 日ごろ)